

紀の川市ドローン社会実装コンソーシアム設立総会 議事録

【開催概要】

- 日 時：令和7年7月25日（金）13時30分～14時25分
 - 会 場：紀の川市役所 本庁5階 501会議室
 - 開催形式：現地参加・オンライン参加
 - 出席者：コンソーシアム会員メンバー、紀の川市職員、ソフトバンク株式会社担当者 等
（別添参加名簿参照）
-

【議事】

1. 開会

- 司会進行は紀の川市企画部企画経営課の東（アズマ）が務め、開会を宣言。

2. 設立発起人代表挨拶

- 設立発起人を代表し、紀の川市 岸本市長より挨拶
 - コンソーシアム設立の趣旨に賛同し、参集したことへの感謝を表明。
 - 紀の川市は、農業をはじめとする地域産業の維持・発展、災害対策、物流の効率化において、ドローン技術の活用に大きな可能性を感じている。
 - 人口減少や人手不足といった地域課題が深刻化する中で、ドローンが暮らしや産業を支える力になると確信している。
 - 本コンソーシアムは、産官学の垣根を越え、地域、企業、教育機関、行政が一体となってドローンの利活用と社会実装を具体的に進める協働のプラットフォームである。
 - 多様な知恵と力を結集し、全国に先駆けて地域課題の解決につなげていきたいと協力を呼びかけた。

3. 出席者の紹介

- 司会より、参加会員、オブザーバー、事務局の紹介が行われた。
- 設立準備会議において参画の意思を表明した会員をもってコンソーシアムを設立することについて、拍手で承認された。
- これにより、「紀の川市ドローン社会実装推進コンソーシアム」の設立が宣言された。

4. 議事

- 議長の選出について

規約が承認されるまでの議長として、設立発起人を代表し岸本市長が選出された。

● 議案第1号:コンソーシアム規約(案)の承認

○ 事務局(紀の川市企画経営課 西端)より説明

- 本コンソーシアムは、ドローンの取組を通じて地域課題の解決に資する早期の社会実装を目指すとともに、新たな産業やビジネスの創出を目的とする。
- 会議体として、総会、全体会、ワーキンググループを設置する。
- 会費については、当面は徴収せず、今年度の活動経費は事務局(紀の川市とソフトバンク社)の予算を活用する。会員の業務の実益が生まれるような取組に至った段階になれば、改めて総会でお諮りする。

○ 質疑応答

- ワーキンググループの活動の進め方や課題抽出方法について質問があり、事務局から「市の課題と参加者の課題を整理し、どのような価値を生み出せるかを検討する」との回答があった。

○ 採決

- 出席会員の過半数以上の同意により、議案第1号は承認された。

● 議案第2号:コンソーシアム活動計画(案)について

○ 事務局(ソフトバンク株式会社 南野)より説明

■ 活動のマイルストーン:

- 2027年度の社会実装を目指し、有事・平時両面で活用できるユースケースの実証を進める。

■ 2025年度の取組方針:

- 防災分野: 市の既存業務を中心に、実運用を想定した実証を9月、11月、2月の年3回実施。具体的には、災害時の通信確保、支援物資輸送、インフラ点検等を想定。ソフトバンクが持つ防災ドローンのソリューションも活用していく。
- 平時利用分野: ワーキンググループでユースケースを創出し、実証を進める。11月と2月に実証を計画しており、まずは物流分野から検討を開始する。

■ 新スマート物流の紹介:

- ドローン等を活用した持続可能な地域物流インフラ「新スマート物流」の取組紹介動画が放映された。

○ 質疑応答

- 実証実験における安全管理について質問があり、事務局から「手続きや安全管理は事務局側で進める想定をしている」と回答があった。
- ドローンの飛行時間等の性能について質問があり、事務局から「性能は機体によって異なり一概には言えないが、それぞれに最大値がある」と回答された。

○ 採決

- 出席会員の過半数以上の同意により、議案第2号は承認された。

5. その他

● 質疑応答

コンソーシアム全体における質疑応答はなかった。

● 司会より案内

- 次回会議: 全体会を8月下旬に開催予定。
- 入会申込書: 運営上、改めて入会申込書の提出を依頼。

● 記念写真を撮影

6. 閉会